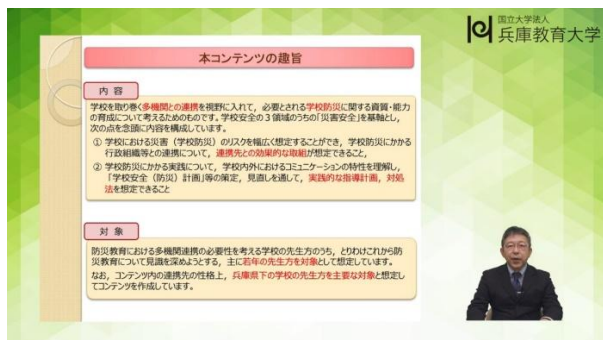


教員のための多機関連携と防災教育



内容

本コンテンツは、実際の災害が発生したときに、地域等の様々な機関とどのように連携し、児童生徒の命を守ることができるかが重要な点である。そのため、1)「災害」についての幅広い理解、2)多機関連携による「防災」の理解、3)実践的な学校防災の構想、の3点の内容を含む、3回の講座により構成する。

まず、第1部では『「災害」についての幅広い理解』と題して、「なぜ防災教育が必要なのか、なぜ災害が起きるのか」を考えることをねらいとし、カリキュラム・マネジメントを踏まえつつ充実の度を増した防災教育の位置付けとともに、自然環境、自然現象と自然災害との関わりについて再確認するものとした。具体的には、①安全教育における防災教育～防災を考える意味、防災教育を行う意義～、②学習指導要領における防災教育の位置付け～防災教育に求められるカリキュラム・マネジメント～、③自然環境、自然現象と自然災害～私たちの生活圏に見られる自然環境、自然現象と備えるべき自然災害～の3本の講座によって構成している。

続く、第2部は「多機関連携による『防災』の理解」と題して、「なぜ他機関との連携が必要なのか、どのような機関とどのような連携が考えられるのか」を考えることをねらいとし、学校防災に関連する諸機関とそれが果たす役割について学習し、災害発生に備える側面においても、また災害発生後の対応という側面においても、学校が立地する地域の諸機関・諸団体との連携の重要性、有用性を確認するものとした。具体的には、①多機関連携の必要性～社会の知見に学ぶ防災及び防災教育～、②学校防災を支える教育行政～学校を支える県教育委員会の施策や情報～、③災害を振り返る～語り継ぎ、その教訓を未来に生かすこと～、④災害時の対応を学ぶ～災害に備えた体験型学習、訓練に求められること～の4本の講座によって構成している。

最後の第3部では、「実践的な学校防災の構想」と題して、「なぜ防災計画が必要なのか、どのような防災計画が実践的な計画となり得るのか」を考えることをねらいとし、実際に防災の取組を行っている自治体等の例に学び、災害安全をいかに啓発するかプログラムの構想し、コンテンツ全体の学習内容の振り返りと総合化を行うものとした。具体的には、①地域社会の取組からの学び～市教育委員会が関わる各種取組を通しての学び～、②実践先進校の取組からの学び～実践校の公開研究会を通しての学び～、③学校現場に求められる災害対応～体験談；災害時、災害後に求められた対応～、④「学校安全（防災）計画」等の策定と見直し～変化する災害とそれへの対応～の4本の講座によって構成している。

講師（所属等は令和6年3月時点）

兵庫教育大学 先端教職課程カリキュラム開発センター 教授 濱野清

兵庫教育大学 先端教職課程カリキュラム開発センター 准教授 西盛康子

兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 講師 小倉拓郎

兵庫県教育委員会事務局 教育企画課教育企画班長 美馬恵司
兵庫県広域防災センター 総務部長兼管理部長 栗原利典
南あわじ市教育委員会事務局 学校教育課副課長兼指導主事 浜田啓久
土佐市立蓮池小学校 校長 吉門直子